

# 宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(14)

－ 2022年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.

(14)

－ Class Reports and the Results of a Questionnaire Survey －

松 田 勇 一

Yuichi MATSUDA

## 概要

本稿では、宇都宮共和大学における2022年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した学生に対する意識調査の結果を示した。授業報告では、本科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

## 1 はじめに

本学では、2016年度より初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018、2019、2020、2021、2022）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。2020年度はコロナ禍により一部の授業をオンラインで行ったが、2021年度は全ての授業を対面で行った。また、2021年度からクロームブックを1年生全員に配布し、教材のデジタル化が図られた。しかし、2021年度の基礎ゼミではグーグルクラスルームを用いて教材をアップロードした以外では活用することができなかった。そこで、2022年度は週間日誌と提出課題の電子化を推進し、クロームブックの有効活用を図った。

本稿では、2022年度「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

## 2 授業概要

2022年度の基礎ゼミはシティライフ学部1年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して7つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は9～10名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

## 2.1 目的

2022年度の基礎ゼミの目的は、昨年度と同様である。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。
- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。
- (8) クロームブックを活用し、課題を電子データとして提出することができる。
- (9) 学期末にパワーポイントを用いて、今後の研究について発表することができる。

## 2.2 授業の方法と内容

2022年度基礎ゼミは、受講者68名（日本人学生64名・留学生4名）を7クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は7クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、7人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや課題、提出物などを確認し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、教科書の途中で全てのゼミ合同での講義や発表などを組み入れた。2021年度からは1年生全員にクロームブックを配布し、学内のICT教育を推進している。2022年度においても基礎ゼミの最初にクロームブックについての説明会を合同で行った。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	アカデミックスキル①クロームブックの使い方（高丸教員）
	2	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	3	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	4	合宿交流研修（学生委員会）
	5	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	6	アカデミックスキル②ノートテイキング（松田教員）
	7	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	8	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	9	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」①（7クラス合同）
	12	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」②（7クラス合同）

	13	アカデミックスキル③レポートの書き方 (松田教員)
	14	テキスト第 8 章「生活プランをどう立てるか」
	15	消費者カレッジ (学生委員会主催)
秋 学 期	16	クラス再編成・キャンパスハラスメント防止啓発研修
	17	テキスト第 9 章「卒業したらどうするか」
	18	キャリアガイダンス (就職委員会主催)
	19	テキスト第 10 章「生活と人生のデザイン」
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」① (7 クラス合同)
	21	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」② (7 クラス合同)
	22	テキスト第 11 章「研究テーマを考える」
	23	大学祭ポスター作成 (「夏休みの課題：私の〇〇場所」)
	24	テキスト第 12 章「研究を進める」
	25	テキスト第 13 章「研究報告をまとめる」
		テキスト第 14 章「プレゼンテーションとレポート」
	26	最終発表リハーサル・質疑応答
	27	最終発表「これからの研究したいこと」(7 クラス合同・1 人 3 分)
	28	最終発表「これからの研究したいこと」(7 クラス合同・1 人 3 分)
	29	最終発表「これからの研究したいこと」(7 クラス合同・1 人 3 分)
30	卒業研究発表会聴講 (4 年生の卒業研究発表を聴講し評価する)	

2021年度までは、週間日誌と作文を指定の用紙に記入させて提出させていたが、2022年度からは電子データでの提出に変更した。電子データでの提出はグーグルフォームを利用し、記述式テキスト形式で「新たに学んだこと・気づいたこと」100字以上、「週間報告—この2週間で印象に残った出来事」200字以上、「作文」200字以上で提出させた。課題は2週間に1回の提出とし、受講者全員に対して提出期間を定めてグーグルクラスルームから指示を出した。2021年度までは、紙面での提出であったため字数を目視で確認する必要があったが、グーグルフォームを使用することによってその必要がなくなり、決められた字数以上書かれていないと提出することができなくなった。したがって、「9割以上記入している→2点」、「9割未満だが半分以上記入している→1点」、「半分以下、全く記入していない→0点」という採点基準がなくなった。

また、2022年度は週間日誌の電子データ化に加えて提出課題も一部電子データ化した。具体的には、春学期の発表「キャンパス周辺の〇〇場所」の写真データ、秋学期の「夏休みの課題：私の〇〇場所」の写真データ、最終発表「これから研究したいこと」のスライドデータである。これらの課題は、週間日誌と同様にグーグルクラスルームで指示を出し提出させた。なお、秋学期の大学祭ポスターは趣向を変えて電子データではなく手書きとしたが、学生の個性溢れる作品（イラストや漫画風デザイン）も見られ、展示が華やかになった。

## 2.3 成績評価

ポートフォリオ（週間日誌・作文）40%、テキストのワークシート40%、発表20%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（-欠席回数×3点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。

## 3 意識調査

### 3.1 調査概要

調査は、2022年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期44名、秋学期は54名であった。2021年度までは、日本人学生と留学生を区別していたのだが、今回の調査では区別していない。なお、受講者数と回答者の違いは、アンケートの回答を任意としたためである。また、2021年度までは紙面による調査であったが、2022年度からはGoogleフォームを利用した。回答は、5段階評定法、及び自由回答法によった。なお、調査票は大学生生活全般について、これからの勉強について、基礎ゼミについて、に分かれている。

### 3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

#### 3.2.1 大学生生活全般について

大学生生活全般に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生生活に満足している ③大学生生活は楽しい ④大学生生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している

⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

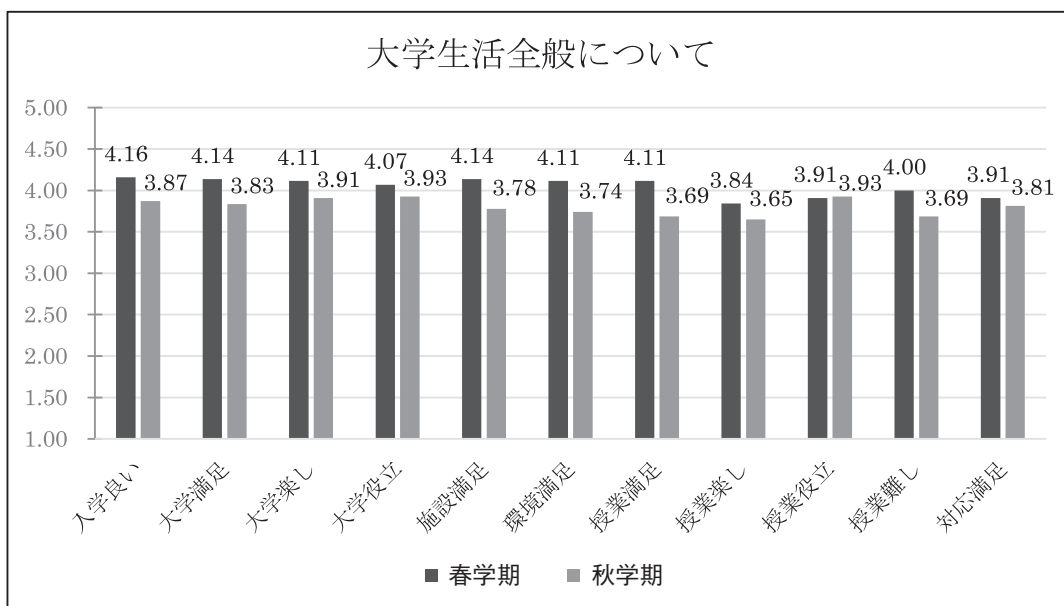


図1

まず、全体として春学期よりも秋学期に数値が低くなっていることが分かる。この要因の一つとして考えられることは、春学期の評価が例年よりも高いことである。転じて言うならば今年度の秋学期は例年と同様である。春学期の評価が高くなったのは、ゲルフォームによる調査自体に新奇性があったからかもしれない。

次に、大学生生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

#### 【自由記述】

<春学期>

- ・この教科はこうやって勉強した方がいいとか教えて欲しいです。

<秋学期>

- ・子供生活とか短大との交友を増やしてほしい。
- ・人間関係が苦手です。
- ・必修の講義は全て一限に統一してほしい。
- ・大学に置いてある自動販売機に電子決済を導入してほしい。
- ・シティキャンパスの敷地が狭く、球技をしようとしてもあまりできない。長坂キャンパスは遠い。

以上のような意見が見られたが、長坂キャンパスの学生との交流は今後も検討していく必要があるだろう。また、各キャンパスの特性（シティキャンパスは立地の良さ・長坂キャンパスは施設の広大さ）を生かした学生の利便性の向上を図っていくのも今後の課題と言えよう。

### 3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

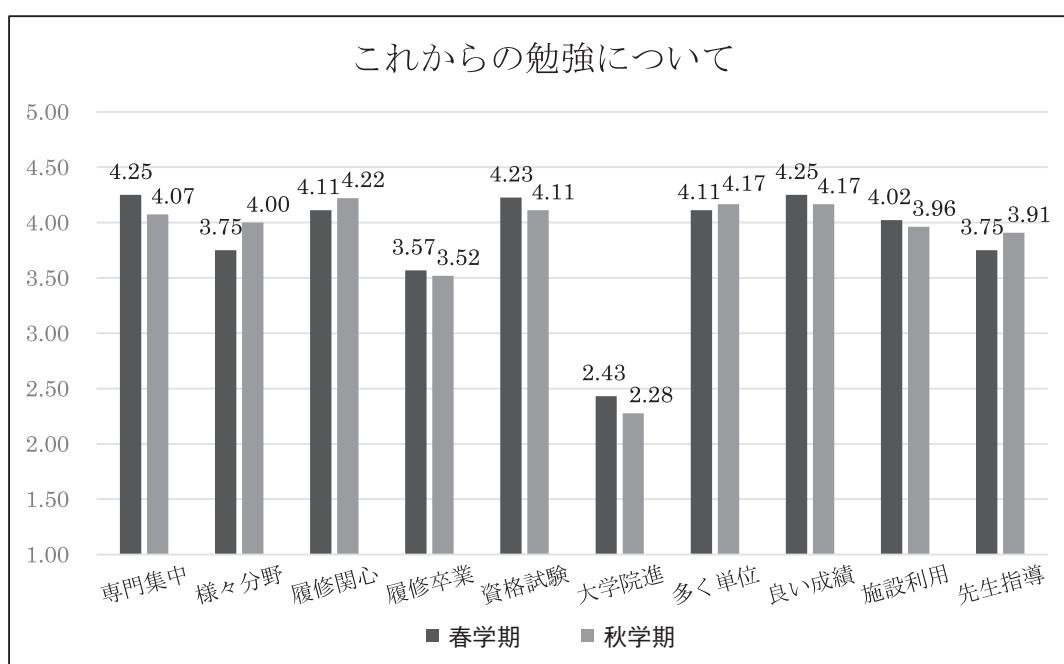


図2

まず、全体の結果を見ると、春学期は質問1、3、5、7、8、9、秋学期は質問1、2、3、5、7、8が4.0を超えた。これは昨年と同様の傾向であるが、単に卒業すれば良いという考えではなく、専門分野を集中して勉強したいという学生が多いことが分かる。また、質問2の様々な分野を広く勉強したいと思う数値が秋学期に上昇しており、大学入学後学生たちが学問的に視野の広がったことを窺わせる結果と捉えられる。

次に、これからの勉強について自由回答してもらった結果を示す。

### 【自由記述】

<春学期>

- ・単位が取れるかが不安。テストが不安。
- ・単位音なさないか心配。
- ・参考書を買った方が良いか心配。

<秋学期>

- ・単位を取れるか。

以上のような回答が得られたが、やはり春学期は大学生活が初めてということもあり、単位取得について心配している様子が分かる。

### 3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について10の質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥クロームブックで課題を作成することは良かった ⑦課題（新たに学んだこと・気づいたこと）は良かった ⑧課題（週間報告）は良かった ⑨課題（作文）は良かった ⑩対面での授業は良かった）を設置した。

作文テーマについては、春学期は「自己紹介」、「高校時代の一番の思い出」、「私の親友」、「私の名前の由来」、「私の自慢」、「私の趣味」、「今までで一番ラッキーだったこと」の7つ、秋学期は「私の春学期と夏休み」、「私の長所と短所」、「私の宝物」、「私の好きな本」、「私が一番感動した映画」、「もし生まれ変わったら」、「将来の夢」、「1年間の総括」の8つである。

教科書・各回の授業については、基礎ゼミの教科書『プレステップ基礎ゼミ』と合同講義（春学期「クロームブックの使い方」、「ノートテイキング」、「キャンパス周辺ツアー」、「キャンパス周辺の発表をしたこと」、「キャンパス周辺の発表を聞いたこと」、「レポートの書き方」、秋学期は、「クラス再編について」、「夏休み課題発表」、「大学祭での展示」、「最終発表リハーサル」、「最終発表」）に関する質問である。

以上の設問回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

## 【基礎ゼミ全般について】

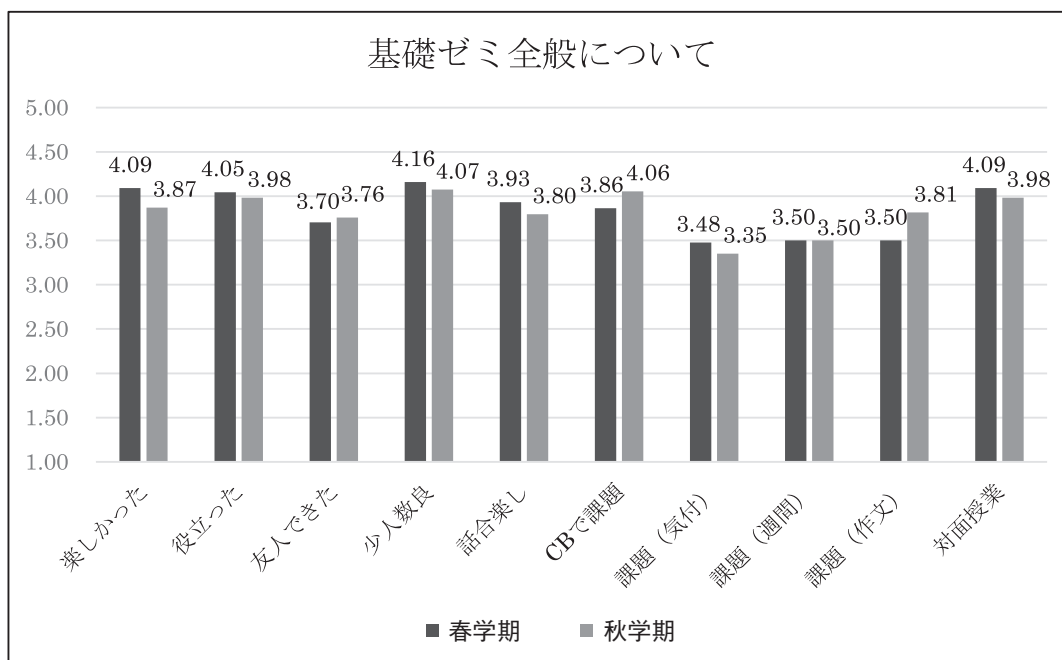


図3

まず、全体で4.0を超えたものは、春学期は「楽しかった」、「役立った」、「少人数制の授業」、「対面授業」、秋学期は「少人数制の授業」、「クロームブックでの課題」であった。2022年度の基礎ゼミは、全般的に好意的に評価されたと考えられるが、「課題」については3点台となっており、学生にとってより役立つものを模索していく必要がある。クロームブックで課題を作成することも秋学期は4.06となっており、一年を通じてリテラシーの向上が実感できた結果と捉えられる。

次に、基礎ゼミ全般について自由回答してもらった結果を示す。

### 【自由記述】

#### <春学期>

- ・週間報告の新たに気が付いたこと・学んだことは毎回なくていいと思う。

#### <秋学期>

- ・ゼミで2週間に一回の頻度で週刊日誌で毎回毎回気づいたこと、学んだことを聞かれると思いつかないので月に一回とかにしてもらった方がもっと具体的に皆書けると思いました。
- ・週刊日誌が2週間に1回だと忘れがちになったり、新たに気づいたことや学んだことが思いつかなかったりするので、月に1回とかにすると忘れることや思いつかないことが改善されると思います。



- ・新たに学んだことが毎回だとネタが尽きる
- ・忘れること多過ぎました。
- ・週刊日誌はなんのためにやっているのか知りたい
- ・時間余ってるのに強制終了された人可哀想。
- ・パソコンをクロームブックではなく、Windowsにしてほしかった。Googleのワープロは使い慣れないため、使いづらかった。

以上のような回答が見られたが、「新たに気が付いたこと・学んだこと」が思いつかないというのは大学において何を学んでいるのかと不安になってしまう。それとも、学生は大学での講義以外のものを書かなければならないと思ってしまうのか。いずれにしても、今後は週間日誌の内容、作成する理由、意義について詳しく説明する必要があるだろう。

#### 【作文テーマについて】

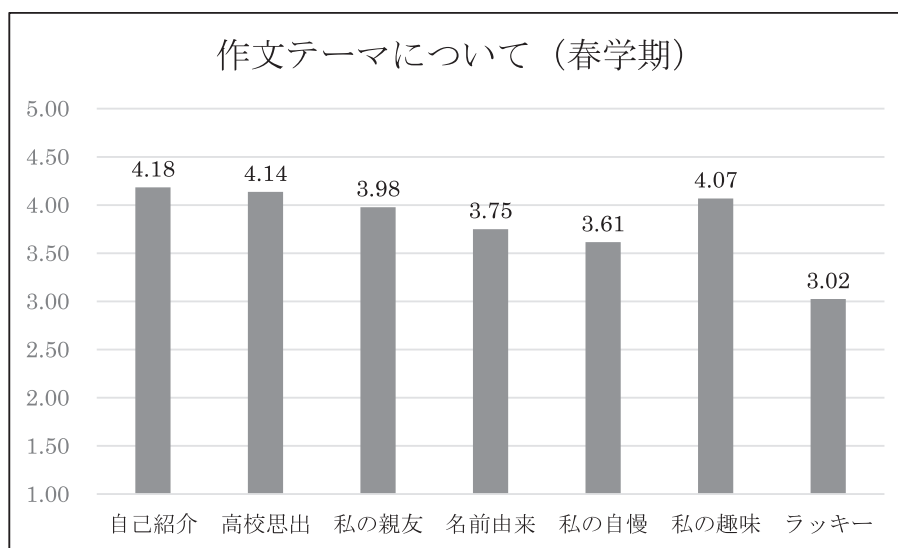


図 4

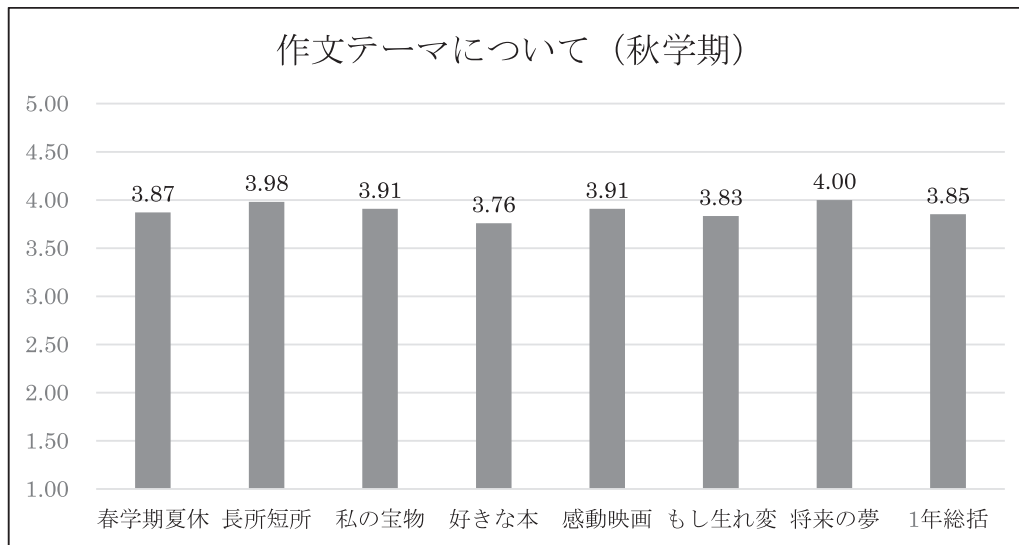


図5

作文のテーマについて、評価が4.0以上だったものは「自己紹介」、「高校時代の一番の思い出」、「私の趣味」、「将来の夢」であった。逆に最も評価が低かったものは、「今までで一番ラッキーだったこと」であり3.02であった。このような評価になった原因は定かではないが、今後も学生が意欲を持って取り組めるテーマを探っていきたい。

次に、作文のテーマとして取り上げてほしいものについて自由回答してもらった結果を示す。

#### 【自由記述】

##### <春学期>

- ・最近あったいい事と悪いこと
- ・家族について
- ・今までで一番良かった旅行

##### <秋学期>

- ・好きな動物
- ・私の好きなこと
- ・もし自分に秀でた才能があったら

【教科書と各回の授業について】

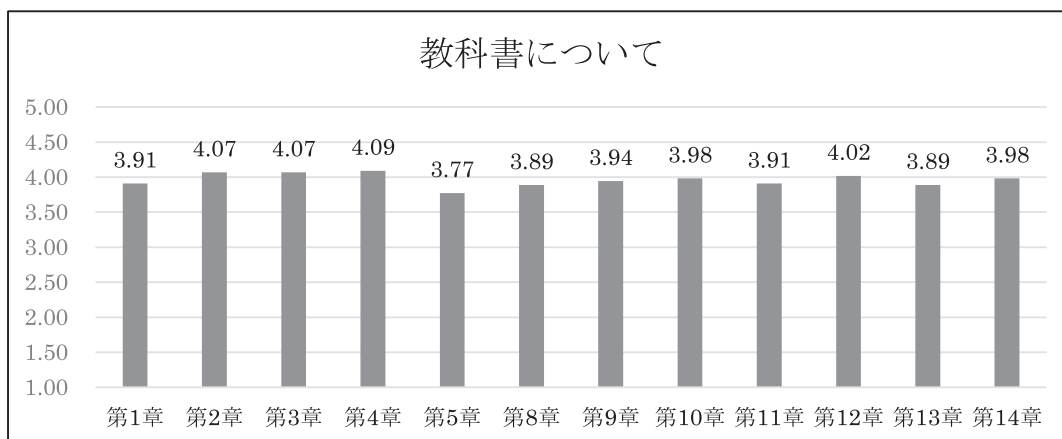


図6

教科書については、4.0以上となった章は、第2章「勉強のリズムを作ろう」、第3章「大学で学ぶということ」、第4章「困ったことはありませんか?」、第12章「研究を進める」だった。大学生活の中でも学生が現時点で直面している課題について取り上げている章が高い数値となった。反対に第5章「大学はワンダーランド」はカルトと消費者問題を取り上げた章であり、実体験がない学生には興味が持てなかったのかもしれない。

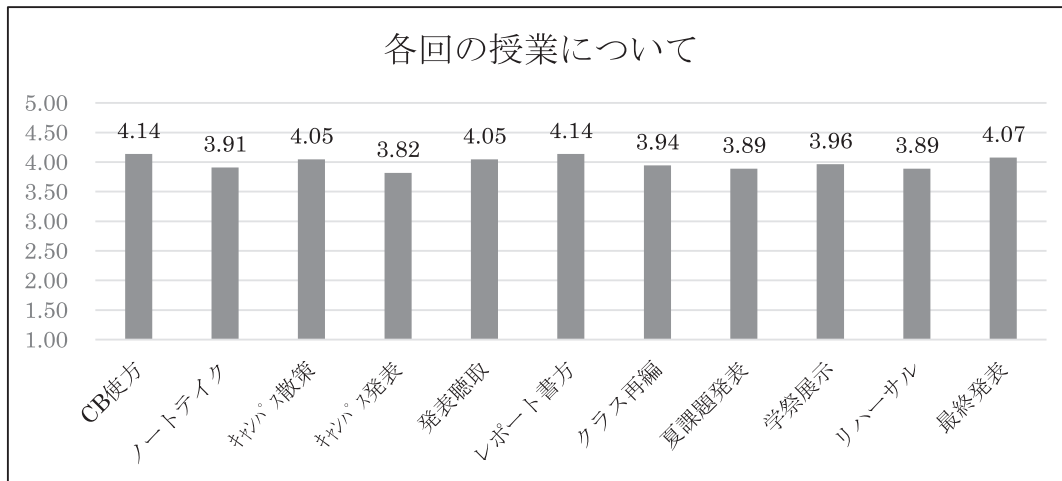


図7

各回の授業について4.0以上となったのは、「クロームブックの使い方」、「キャンパス周辺散策」、「キャンパス周辺発表聴取」、「レポートの書き方」、「最終発表」であった。キャンパス周辺の散策はフィールドワークを行ったが、自分で発表するよりも他人の発表を聞く方が評価が高かった。これは、自分が知らない身近な場所を知ることができたという好意的な評価と考えられる。また、最終発表は「これから研究したいこと」をテーマにスライドを作成させ3分間の発表をさせたが、評価は4.07と学生からはある程度評価を

得られた。

教科書・各回の授業についての自由回答は特になかったが、「クロームブックがすぐに壊れてしまった」という記述があった。

#### 4 まとめと今後の課題

2022度の基礎ゼミでは、3年目に突入したコロナ禍の中、引き続き感染症対策を徹底して対面授業を行った。また、課題となっていた週間日誌と提出課題（キャンパス周辺の写真や最終発表のスライド）の電子データ化を推進した。それにより、クロームブックの有効利用には繋がったが、クラスルームを確認しない学生の週間日誌や課題の未提出が多くなった。今後は、クロームブックとクラスルームの有効利用と共に学生に利用を徹底させていきたい。

コロナ禍が3年を経過し、収束の兆しが見えつつある。マスクで覆われた3年間で学生たちにどのような影響を及ぼすのかは分からないが、彼ら彼女らのキャンパスライフがより充実したものになることを願う。その為にも、学生たちが入学して良かったと思える教育環境を今後も構築していく必要がある。

#### 【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8) -平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号
- 松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9) -平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第19号
- 松田勇一（2019）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(10) -平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第20号
- 松田勇一（2020）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(11) -2019年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第21号
- 松田勇一（2021）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(12) -2020年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第22号
- 松田勇一（2022）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(13) -2021年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第23号

謝辞:2022年度の基礎ゼミでは、本学の田部井伸芳教授、和田佐英子教授、高丸圭一教授、北浦さおり准教授、今喜史専任講師、永井紹裕専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。